

令和4年度

青森圏域重点事業に関する要望書

令和3年10月

青森市 平内町 今別町

外ヶ浜町 蓬田村

## 令和4年度青森圏域重点事業要望項目一覧

### 【最重点要望5項目】

No.	要 望 項 目	県 担 当 部 署	市 町 村 担 当 部 署	頁
1	青森駅周辺をはじめとする都市拠点の整備、鉄道の有効活用及び機能充実にに向けた取組について	企画政策部 交通政策課 国土整備部 都市湾計空画港課	青森市 都市整備部 都経部 青森市 都市整備部 都経部 青森市 都市整備部 都経部 青森市 都市整備部 都経部	1
2	青森県立浪岡高等学校の存続について（新規）	教 育 庁 高等学校教育改革推進室	青森市 浪岡振興部 総務課 青森市 教育委員会事務局	2
3	ホタテ残渣処理事業への協力について	農林水産部 水産振興課 環境生活部 環境政策課	平内町 水産商工観光課 平内町 水産商工観光課	3
4	県道14号線 主要地方道今別蟹田線（平坦化整備）整備促進について	国土整備部 道路課	今別町 産業建設課	4
5	世界遺産（北海道・北東北の縄文遺跡群）の保存・活用について	教 育 庁 文化財保護課 企画政策部 世界文化遺産登録推進室 観光国際戦略局 観光企画課	外ヶ浜町 教育委員会 社会教育課 社会教育課 世界遺産対策室	5

## 令和4年度青森圏域重点事業要望項目一覧

### 【重点要望25項目】

No.	要 望 項 目	県 担 当 部 署	市 町 村 担 当 部 署	頁
1	新型コロナウイルス感染症対応のための財源の確保について	企画政策部 健康福祉部 地区	青森市 企画部 青森市 市民病院事務局 青森市 企画調整課	6
2	広域連携の推進について	総務部 環境生活部 農林水産部 観光国際戦略局	青森市 企画部 青森市 環境経済部 青森市 環境新観光推進センター 青森市 環境新観光推進センター 青森市 環境新観光推進センター	7
3	新ビジネスへの挑戦に対する支援・連携について	商工労働部 商工労働部	青森市 経済部 青森市 経済部 青森市 経済部	8
4	雇用対策の充実について	商工労働部 労政・能力開発課	青森市 経済部 経済政策課	9
5	多面的機能支払交付金に係る地方自治体の負担軽減策について	農林水産部 農村整備課	青森市 農林水産部 農地林務課	10
6	森林経営管理制度の実施に係る支援・連携について	農林水産部 林政課	青森市 農林水産部 農地林務課	11
7	青森空港の利用促進について	企画政策部 観光国際戦略局 交通政策課	青森市 経済部 交通推進課	12
8	青森港の機能充実について	国土整備部 港湾空港課	青森市 都市整備部 青森市 経済部 青森市 経済部	13
9	外国人観光客の受入環境整備の充実について	観光国際戦略局 観光国際戦略局 誘客交通課	青森市 経済部 交通推進課	14
10	少人数学級編制の推進について	教育庁 教職員課	青森市 教育委員会事務局 学務課	15
11	スクールカウンセラー派遣の拡充について	教育庁 学校教育課	青森市 教育委員会事務局 指導課	16
12	スポーツツーリズムの推進について	企画政策部 教育庁 観光国際戦略局 観光企画課	青森市 経済部 地域スポーツ課	17
13	第80回国民スポーツ大会における開催経費の負担等について	企画政策部 教育庁 国民スポーツ大会準備室 国民スポーツ大会準備室	青森市 経済部 地域スポーツ課	18
14	世界遺産及び史跡の保存・活用について	教育庁 文化財保護課 観光国際戦略局 観光企画課	青森市 経済部 文化財推進課 青森市 経済部 文化財推進課	19
15	リモートワーク人材誘致に向けた支援と青森県独自の移住支援金制度の創設について	商工労働部 企画政策部 地域活力振興課	青森市 企画部 企画調整課	20
16	短命県・短命市返上に向けた取組の促進について	健康福祉部 健康福祉部 高齢福祉保険課	青森市 保健部 健康づくり推進課	21
17	河川改修等の整備促進について	国土整備部 河川砂防課	青森市 都市整備部 公園河川課	22
18	一般国道7号等の整備促進について	国土整備部 道路課	青森市 都市整備部 青森市 浪岡振興部 青森市 浪岡振興部	23
19	雪総合対策の推進について	総務部 国土整備部 企画政策部 地域活力振興課	青森市 都市整備部 青森市 浪岡振興部 青森市 浪岡振興部	24
20	都市計画道路の整備促進について	国土整備部 都市計画課	青森市 都市整備部 道路建設課	25
21	青森空港有料道路の無料化について	国土整備部 道路課	青森市 都市整備部 青森市 浪岡振興部 青森市 浪岡振興部	26
22	津軽横断道路の整備促進について	国土整備部 道路課	青森市 浪岡振興部 青森市 浪岡振興部 青森市 浪岡振興部	27
23	国道280号線（砂ヶ森道路改良事業）整備促進について	国土整備部 道路課	今別町 産業建設課	28
24	国道280号（蓬田～蟹田）バイパス整備促進について	国土整備部 道路課	外ヶ浜町 建設課	29
25	蟹田川の河川整備について	国土整備部 河川砂防課	外ヶ浜町 建設課	30

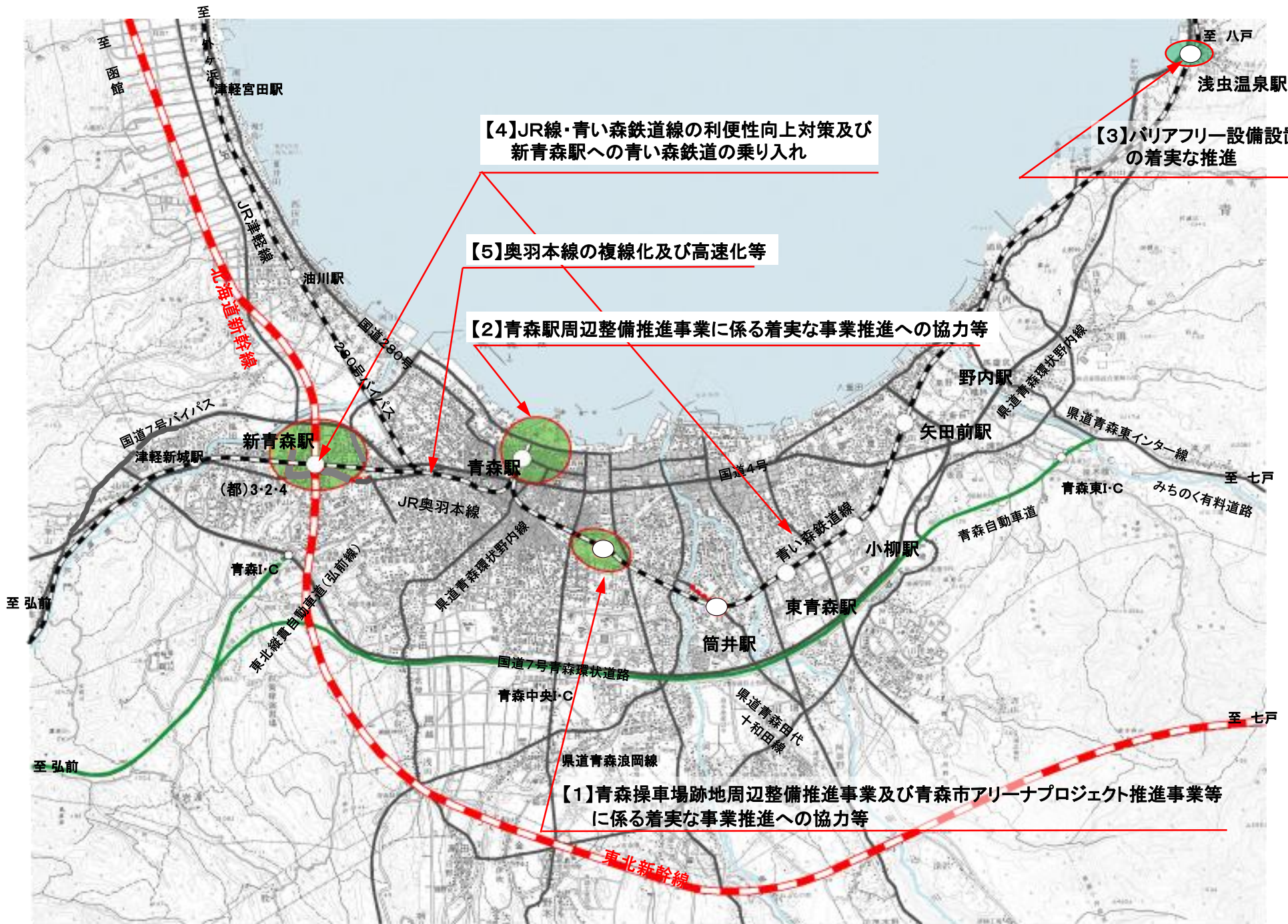
# 最重点要望項目

要望項目	<b>青森駅周辺をはじめとする都市拠点の整備、鉄道の有効活用及び機能充実にに向けた取組について（継続）</b>		
要望先	国	国土交通省（鉄道局（総務課、幹線鉄道課、鉄道事業課、施設課）、都市局（まちづくり推進課、市街地整備課、街路交通施設課、公園緑地・景観課））	
	県	企画政策部（交通政策課）、県土整備部（都市計画課、港湾空港課）	
	その他	東日本旅客鉄道株式会社、青い森鉄道株式会社	
関係法令		事業主体	青森県、青森市、東日本旅客鉄道株式会社、青い森鉄道株式会社

要 望 事 項 の 内 容	
<p>本市では、平成 30 年 3 月に策定した「青森市立地適正化計画」及び「青森市地域公共交通網形成計画」に基づき、『「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくり』として、都市の効率性を高めるコンパクトな複数の拠点づくりと、それらの拠点を接続する公共交通ネットワークを有機的に連携させることにより、市内各地域の特色を活かしつつ、持続可能な都市づくりを推進しています。</p> <p>このうち、都市機能誘導区域の1つである「操車場跡地周辺地区」においては、スポーツのみならず多様な催事ができる交流拠点としてアリーナ等を整備することとしており、令和 4 年度からの工事着手を目指して、現在、設計業務を実施しているところです。</p> <p>つきましては、特に重点的に進めるべきと思慮する次の事項について特段の御配慮をいただきたい。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青森操車場跡地周辺整備推進事業及び青森市アリーナプロジェクト推進事業等に係る着実な事業推進への協力並びに青い森鉄道線への新駅設置の早期実現</li> <li>2. 青森駅周辺整備推進事業に係る着実な事業推進への協力及び臨港道路西船線（1）の早期実現</li> <li>3. 青い森鉄道線浅虫温泉駅バリアフリー設備設置の着実な推進</li> <li>4. JR線・青い森鉄道線における利便性の高いダイヤ編成・輸送サービスの実現及び青い森鉄道線における新幹線新青森駅（JR奥羽本線）への乗り入れ</li> <li>5. JR奥羽本線（川部・青森間）の複線化及び高速化等利便性向上の早期実現</li> </ol>	

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
平成 22 年 12 月	東北新幹線「八戸・新青森間」開業、青い森鉄道線「八戸・青森間」開業
平成 23 年 3 月	青い森鉄道線 野内駅開業
平成 24 年 2 月	「青森駅を中心としたまちづくり基本計画」の策定
平成 26 年 3 月	青い森鉄道線 筒井駅開業
平成 28 年 3 月	北海道新幹線「新青森・新函館北斗間」開業
平成 28 年 7 月	「青森駅自由通路整備等に関する基本協定」の締結
平成 30 年 3 月	「青森市立地適正化計画」及び「青森市地域公共交通網形成計画」の策定
平成 30 年 6 月	「青森駅周辺のまちづくりに関する連携協定」の締結
平成 30 年 7 月	「青森駅自由通路整備等に関する工事の施行協定」の締結
平成 30 年 9 月	浅虫温泉駅バリアフリー設備設置可能性調査の実施
平成 31 年 3 月	「青森操車場跡地利用計画」の決定
令和 元年 7 月	市民の新駅利用意向に関する調査データ等の県への情報提供
令和 元年 9 月	青森操車場跡地周辺整備工事に着手
令和 2 年 4 月	(仮称) 青森市アリーナ及び青い森セントラルパーク等整備運営事業募集要項等の公表
令和 2 年 7 月	浅虫温泉駅バリアフリー設備設置基本調査の実施
令和 3 年 3 月	(仮称) 青森市アリーナ及び青い森セントラルパーク等整備運営事業 本契約の締結
令和 3 年 3 月	青森駅自由通路供用開始
令和 3 年 4 月	(仮称) 青森市アリーナ及び青い森セントラルパーク等整備運営事業 設計業務に着手
令和 3 年 7 月	浅虫温泉駅バリアフリー設備設置実施設計の実施

担当部署名	青森市 都市整備部都市政策課 青森市 都市整備部公園河川課 青森市 都市整備部道路建設課 青森市 経済部地域スポーツ課
-------	--



青森駅周辺整備をはじめとする都市拠点の整備、鉄道の有効活用及び機能充実に向けた取組について(継続)



要望項目	青森県立浪岡高等学校の存続について（新規）		
要望先	国		
	県	教育庁（高等学校教育改革推進室）	
	その他		
関係法令		事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容

青森県教育委員会が令和3年7月7日に公表した「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」によると、青森県立浪岡高等学校（以下「浪岡高校」）は、青森県立青森西高等学校との新たな統合校の開校により、令和10年度末をもって閉校するとされています。

浪岡高校は、昭和5年の創立以来、これまで12,707名の卒業生を輩出し、令和2年度には創立90周年を迎えた伝統と歴史ある高校であり、その特色として、進学に対応した教養コースのほか、就職に対応した資格取得に力を入れた商業実務コースを設けるなど本市のみならず、弘前、五所川原、黒石、藤崎など周辺地域から生徒が入学しているところであります。

また、今年で32回目を迎える「空き缶壁画」では、保護者や町内会にも協力いただきながら約2万個の空き缶を回収して制作、展示後はリサイクルし、その収益金を社会福祉協議会に寄付するという活動が高く評価され、平成29年度には「循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰」を受賞するなど、環境や福祉に関する意識を醸成する教育が行われているところであります。

さらに、同校のバドミントン部は、全国大会において団体・個人ともに優勝するなどの目覚ましい成績を挙げており、その背景として、第32回（昭和52年）青森国体のバドミントン競技の主会場となるなど、浪岡地区において長年にわたってバドミントンが地域に根差したスポーツとして親しまれているところであります。このようなことから全国からの生徒募集を実施していないにもかかわらず、バドミントン競技の指導を仰ぎたいと県外から浪岡高校に16名、さらに青森市立浪岡中学校（以下「浪岡中学校」）に3名の計19名の中高生が集まっており、全国からの生徒募集を実施した場合には、県内で随一入学者が大幅に増加することが期待されます。

本市といたしましては、浪岡高校は浪岡地区唯一の高校として、これまで地域の活性化に大きく寄与してきたといっても過言ではなく、浪岡地区に欠かせない高校であり、同校の閉校は、浪岡地区において特色ある教育の機会が失われることのみならず、本市や周辺地域をはじめ、全国から入学を希望し集まってくる生徒の受け皿を失うこととなることから、浪岡中学校や浪岡高校へ県外から入学する生徒を対象とした学生寮の整備や引越費用等を助成する新たな移住支援金制度の創設、浪岡中学校への部活動指導員の配置を検討しているところであります。

つきましては、浪岡高校に関する次の事項について、強く要望します。

1. 青森県立浪岡高等学校の存続
2. 青森県立浪岡高等学校への全国募集制度の導入

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項

浪岡高校在籍者数及びバドミントン部所属者数(県外・県内別)一覧表

令和3年4月1日現在

	在籍生徒数		うちバドミントン部所属					
	男	女	県外出身者				県内出身者	
			男	女	男	女	男	女
1年生	25	9	7	1	7	0	0	1
2年生	15	12	3	3	2	3	1	0
3年生	19	17	6	1	4	0	2	1
計	59	38	16	5	13	3	3	2
合計	97		21		16		5	



担当部署名	青森市 浪岡振興部総務課 青森市 教育委員会事務局総務課
-------	---------------------------------

要望項目	ホタテ残渣処理事業への協力について（継続）		
要望先	国		
	県	農林水産部（水産振興課）、環境生活部（環境政策課）	
	その他		
関係法令		事業主体	平内町

要 望 事 項 の 内 容
<p>本町の主要産業である水産業は、昭和 40 年代に確立したホタテガイの天然採苗により生産が飛躍的に伸び、令和 2 年のホタテガイの水揚は約 46 億円、ナマコ等の魚介類を含む総額では約 53 億円となっています。また、関連産業としてホタテガイを加工する事業者も多く、その取扱い金額は約 51 億円となっています。</p> <p>しかし、ホタテガイの生産は海況の変動に影響を受けやすく、夏場の高水温や冬期間の波浪で数年に一度は大量へい死を引き起こしてしまうため、単年度で出荷できる半成貝（籠養殖の一年貝）が大幅に増えており、養殖籠への付着物の増える大きな要因となっています。その結果、籠を洗浄したときに生じる残渣が大量に発生しており、令和 2 年度においては 2,281 トンとなっており、その処理については八戸市の大平洋金属株式会社でリサイクル原料として、岩手県九戸村のいわて県北クリーン株式会社で焼却での処理を委託している状況です。</p> <p>一般廃棄物である養殖残渣は、自治体内で処理することが求められており、現在委託して行われている焼却処理は一時避難的なもので、当町の処理施設ができるまでの条件も処理先の自治体から付されていることから、できるだけ早い時期に町内で処理できる環境を整えることが求められています。</p> <p>また、水産加工の過程で発生する非可食部分であるウロ等の焼却処理についても事業者が共同で行っているものの、設備設置から相当の年数が経過し、更新が迫られている状況です。</p> <p>以上のことから、町ではホタテガイにかかわる廃棄物をすべて（生産から加工まで）一緒に処理する方法を検討しているため、環境にやさしく「埋めない・捨てない・燃やさない」循環型の処理事業を展開して参りたいと考え、町と漁業協同組合、加工組合相互連携のもと勉強会を始めたところです。</p> <p>現在、数社から残渣処理に対する事業提案がなされておりますが、いずれの処理方法も一長一短あり、決め手に欠ける状況です。また、具体化までには現地の聞き取り調査等まだまだ時間がかかる状況です。</p> <p>つきましては、当町の主要産業のみならず、県全体の主要産業ともいえる水産業における大きな課題の解決のため、次の事項について御指導や新しい情報等の御教授をお願いいたします。</p>
<p><b>1. ホタテ残渣処理事業に関する助言</b></p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
昭和 40 年代	ホタテガイの天然採苗による養殖業の確立
平成 10 年度	平内町廃棄物処理施設 竣工（国庫補助金 補助率 1/2）
平成 10 年度	ほたて貝ウロ焼却施設 竣工（国庫補助金 補助率 1/2）
平成 12 年度	外の沢埋立地内 平内町廃棄物処理施設（ホタテガイの残渣処理施設） 開始
平成 25 年度	洋上洗浄機 23 基導入（国庫補助金 補助率 1/2）
平成 26 年度	全自動耳吊機 34 基導入（国庫補助金 補助率 1/2）
平成 26 年度	外の沢埋立地内 平内町廃棄物処理施設（ホタテガイの残渣処理施設） 休止 （施設修理費増や燃料費の高騰により採算が取れなくなったため）
平成 29 年度	洋上洗浄機 20 基・全自動耳吊機 20 基導入（国庫補助金 補助率 1/2）
担当部署名	平内町 水産商工観光課 平内町 町民課



要望項目	県道 14 号線 主要地方道今別蟹田線(平坦化整備)整備促進について (継続)		
要望先	国		
	県	県土整備部 (道路課)	
	その他		
関係法令	道路法、道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律	事業主体	青森県

要 望 事 項 の 内 容
<p>主要地方道今別蟹田線 (県道 14 号) は、青森市や西北五地域への生活道路として物資や人的交流など地域住民の生活を支える唯一の主要道路であります。平成 28 年 3 月には北海道新幹線奥津軽いまべつ駅が開業し、津軽半島への観光ルートや二次交通など重要路線であります。</p> <p>しかし、現状は急勾配でカーブが続く難所区間となっており、特に冬期間は積雪や路面凍結を解消するため散水消雪施設が整備されていますが、豪雪や低温時には残雪・路面凍結による車両事故の多発など、住民生活へ多大な影響を及ぼしております。</p> <p>また、災害等が発生した場合は緊急輸送道路としての重要道路であり、避難駅指定の奥津軽いまべつ駅など、多様な対応が求められる状況であるため、平坦化計画を踏まえた新設ルートでの早期整備が必要であります。</p> <p><b>1. 主要地方道今別蟹田線 (県道 14 号) の平坦化計画を踏まえた新設ルートでの早期整備</b></p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項																																						
<p>○要望活動</p> <p>平成 5 年 5 月 建設省により県道今別蟹田線が主要地方道今別蟹田線に指定</p> <p>平成 26 年 12 月 青森県知事要望実施</p> <p>令和 2 年 1 月 青森県県土整備部長要望実施</p> <p>【県道 14 号線 (散水区間) 交通事故発生件数】</p> <table border="1"> <tr> <th>平成 23 年</th> <th>平成 24 年</th> <th>平成 25 年</th> <th>平成 26 年</th> <th>平成 27 年</th> <th>平成 28 年</th> <th>平成 29 年</th> <th>平成 30 年</th> <th>令和元年</th> <th>令和 2 年</th> </tr> <tr> <td>3 件</td> <td>5 件</td> <td>3 件</td> <td>4 件</td> <td>0 件</td> <td>0 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件</td> </tr> </table> <p>※外ヶ浜警察署からの情報提供件数</p> <p>【北海道新幹線奥津軽いまべつ駅乗降者数】</p> <table border="1"> <tr> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> <tr> <td>33,400 人</td> <td>31,000 人</td> <td>27,600 人</td> <td>15,327 人</td> </tr> </table> <p>※今別町企画財政課独自集計</p> <p>【道の駅いまべつ 利用者数】</p> <table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> </tr> <tr> <td>183,446 人</td> <td>136,920 人</td> <td>119,458 人</td> <td>119,116 人</td> <td>92,016 人</td> </tr> </table> <p>※今別町企画財政課独自集計</p>	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	3 件	5 件	3 件	4 件	0 件	0 件	2 件	2 件	2 件	2 件	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	33,400 人	31,000 人	27,600 人	15,327 人	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	183,446 人	136,920 人	119,458 人	119,116 人	92,016 人
平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年																													
3 件	5 件	3 件	4 件	0 件	0 件	2 件	2 件	2 件	2 件																													
平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度																																			
33,400 人	31,000 人	27,600 人	15,327 人																																			
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度																																		
183,446 人	136,920 人	119,458 人	119,116 人	92,016 人																																		

担当部署名	今別町 産業建設課
-------	-----------

県道 14 号線 主要地方道今別蟹田線（平坦化整備）整備促進について



要望項目	世界遺産（北海道・北東北の縄文遺跡群）の保存・活用について（継続）		
要望先	国	文部科学省（文化庁文化財部（記念物課・世界文化遺産室））	
	県	教育庁（文化財保護課）、企画政策部（世界文化遺産登録推進室）、観光国際戦略局（観光企画課）	
	その他		
関係法令	世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）、文化財保護法	事業主体	青森県、外ヶ浜町

要 望 事 項 の 内 容
<p>北海道・北東北の縄文遺跡群は、1 万年以上にわたって採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産です。北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する 17 の遺跡で構成されています。その構成資産のひとつである当町の大平山元遺跡は、縄文時代開始直後の遺跡であり、旧石器時代の特徴をもつ石器群とともに、土器と石鏃が出土しています。その土器に付着した炭化物の年代測定の結果、15,000 年以上前のものであることが明らかにされており、移動に適さない土器の出現は定住の開始を示し、遊動から定住へと生活が大きく変化したことを知る上で重要な遺跡です。</p> <p>去る 7 月末、世界遺産委員会が開催、世界遺産一覧表に記載され、正式に世界文化遺産に決まりました。コロナ禍ではありますが、たくさんの来訪者が見込まれ、経済効果等が期待されることは、これまでの世界遺産地域が物語っています。そのため、来訪者の受入れ態勢の整備が重要であり急務と考えています。これまでも整備などの準備を進めているところですが、史跡大平山元遺跡の活用を推進するために、次の事項について特段の御配慮をお願いしたい。</p> <p><b>1. 「大平山元遺跡」の保存活用のための整備促進について支援</b>  <b>2. 世界遺産を中心とした誘客促進のための宣伝強化</b></p>

現 在 ま で の 主 な 経 緯 ・ 参 考 事 項	
平成 19 年 5 月	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録推進の共同提案に参加
平成 21 年 1 月	暫定一覧表に記載
平成 25 年 3 月	史跡指定
令和元年 7 月	文化審議会世界遺産部会にてユネスコ推薦候補に選定
令和元年 12 月	関係省庁連絡会議にてユネスコへの推薦を決定、閣議了解、推薦書を文化庁へ提出
令和 2 年 1 月	ユネスコへ推薦書を提出、受理
令和 2 年 9 月	イコモスの現地調査
令和 3 年 5 月	イコモス勧告
令和 3 年 7 月	世界遺産委員会にて記載
担当部署名	外ヶ浜町 教育委員会社会教育課世界遺産対策室